

新考・近衛文麿論

「悲劇の宰相、最後の公家」の戦争責任と和平工作

太田 茂著 A5判ソフトカバー364頁 本体 2,500円 ISBN978-4-8295-0848-0



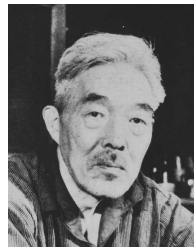
毀誉褒貶が激しく
評価が定まっていない近衛文麿
その戦争責任と和平工作の全容を
約400点の文献資料に基づいて
是々非々の立場で論じる
新たな視点による近衛の人間像

著者 太田 茂 (おおた しげる)

1949年福岡県生まれ。京都大学法学部卒。現在、虎ノ門総合法律事務所弁護士。1977年大阪地検検事に任官後、西日本、東京等各地の地検、法務省官房人事課、刑事局勤務。その間、1986年から3年間北京の日本大使館一等書記官。法務省秘書課長、高知・大阪地・高検各次席検事、長野地検検事正、最高検総務部長を経て、2011年8月京都地検検事正を退官。早稲田大学法科大学院教授、日本大学危機管理学部教授を8年間務めた。剣道錬士七段。令和2年秋、瑞宝重光章。
著書:『ゼロ戦特攻隊から刑事へ』『OSS (戦略情報局)の全貌』『日中和平工作秘史』『新考・近衛文麿論』(いずれも芙蓉書房出版)、『実践刑事証拠法』『応用刑事訴訟法』『刑事法入門』(いずれも成文堂)

- ◎支那事変の拡大・泥沼化は防げなかったのか？
- ◎なぜ「国民政府を相手にせず」の近衛声明を出したのか？
- ◎なぜ三国同盟を締結してしまったのか？
- ◎なぜ得体の知れない大政翼賛会を作ってしまったのか？
- ◎なぜ南進策を決め対米関係の決定的悪化を招いたのか？

- 第1章 近衛文麿の生い立ちなど
- 第2章 近衛文麿の戦争責任
- 第3章 近衛が取り組んだ和平工作
- 第4章 「悲劇の宰相、最後の公家」だった近衛文麿
- 第5章 海軍と陸軍の和平への対応と責任



風見 章



水谷川忠麿



尾崎秀実



ザルゲ

近衛が敗戦直前まで試みた様々な和平工作の詳細と
それが成功しなかった原因を徹底検証する

「近衛は、自己の戦争責任を深く自覚し、様々な和平工作に取り組んだ。特に、日本の敗戦が迫ってからは、憲兵隊や軍部の強硬派からの圧力・妨害や国民の冷たい視線にさらされながら、水面下で重慶・蒋介石との和平や、ヨーロッパを舞台とする連合国との和平工作に懸命に取り組んだ。本書は、広くは知られていないそれらの工作を詳細に検討する」(太田 茂)

11月中旬 新刊搬入予定です 配本部数申込締切は 10月25日(火) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版
〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
新考・近衛文麿論		
11月新刊 本体 2,500円	部	